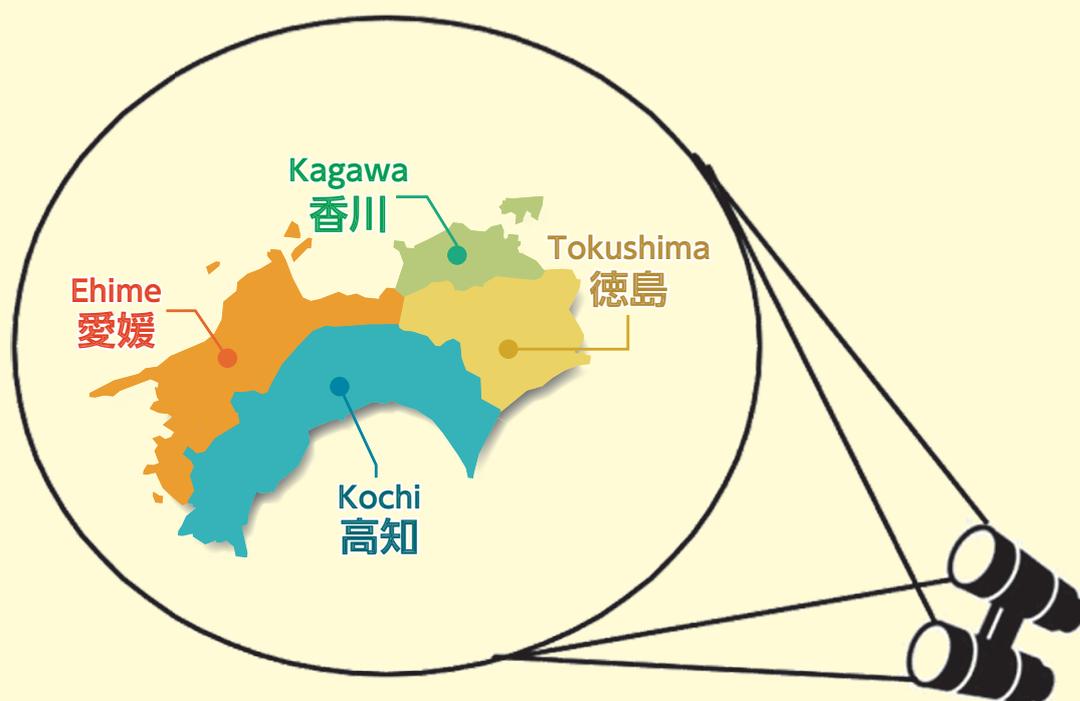


# SHIKOKU まるごと ご提案

～四国が一体となった観光振興の実現に向けて～



2019年9月

一般社団法人徳島経済同友会  
四国等連携推進委員会

# 目次

---

はじめに.....	1
1. 現状と課題.....	2
2. 活動内容.....	6
3. 提 言.....	9
提言1：観光アイデアの活用	
提言2：四国4県の連携	
提言3：観光人材の育成	
おわりに.....	12
参考資料一覧.....	14
委員会活動実績.....	15

# はじめに

---

本会の四国等連携推進委員会では、四国が一体となって取り組むべき課題について、調査研究し、提言することを目的としています。今回、四国4県の経済同友会との意見交換会などを実施し、その課題が浮き彫りになりました。その一つが「観光振興」との共通認識となり、当委員会がその課題に対応するための提言を行うこととしました。

四国各県は、それぞれ独自の歴史や文化が存在し、自然も豊かで、個性豊かな県民性で魅力に溢れています。ただ、観光施策については各県が独自に実施されているものが大半であり、表面的には「四国はひとつ」と位置付けているものの、行動面では連携が進まずに現在に至っています。

また、海外から見ると、「四国」の認知度が各県単独の認知度よりも高く、四国を一体とした観光資源とすることが、インバウンド客を四国地方へ誘致するためには重要な課題であると考えられます。

当委員会では、以上のような課題認識に立ち、四国4県の連携についての調査研究を行い、四国一体となった観光振興に資する提言を検討しました。

# 1. 現状と課題

## ■ 四国の観光

四国は、自然豊かな観光名所や、独特の伝統行事、歴史文化が数多く存在しており、近年ではマチ★アソビや大塚国際美術館、瀬戸内国際芸術祭、瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会、ひろめ市場など話題を集める観光資源も加わり、観光による経済効果が大きく期待されているところである。

一方、「観光入込客統計」（2017年／35都道府県での集計）によると、四国各県は日帰り客数、観光消費額ともに下位に低迷している現状が読み取れる（表1）。

【表1 観光入込客統計に見るランキング（35都道府県）<sup>1</sup>】

観光客入込客数（日帰り）			観光消費額		
順位	都道府県	千人回	順位	都道府県	十億円
1	東京都	492,782	1	東京都	5,845
2	埼玉県	114,657	2	千葉県	1,383
3	千葉県	110,462	3	福岡県	1,303
24	香川県	12,177			
27	愛媛県	11,294			
30	徳島県	9,366	30	愛媛県	140
			31	香川県	134
33	福井県	8,292	32	島根県	123
34	岩手県	7,227	33	秋田県	109
35	鳥取県	6,100	34	鳥取県	94
			35	徳島県	89
	全国平均	41,330		全国平均	513

(2017年年間値)

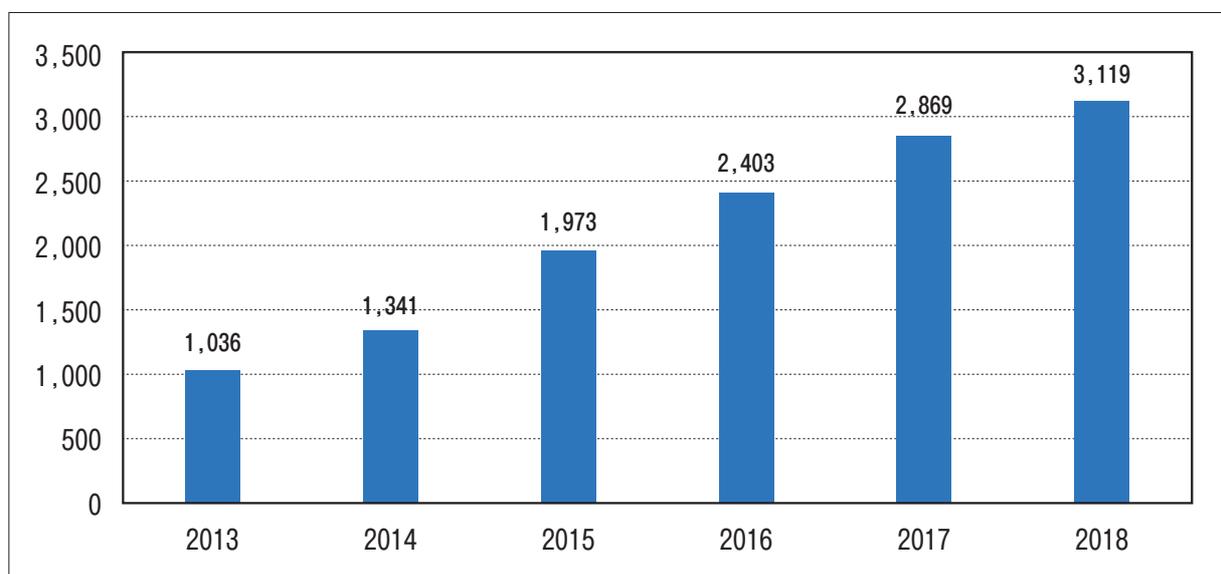
(2017年年間値)

## ■ 四国のインバウンド動向

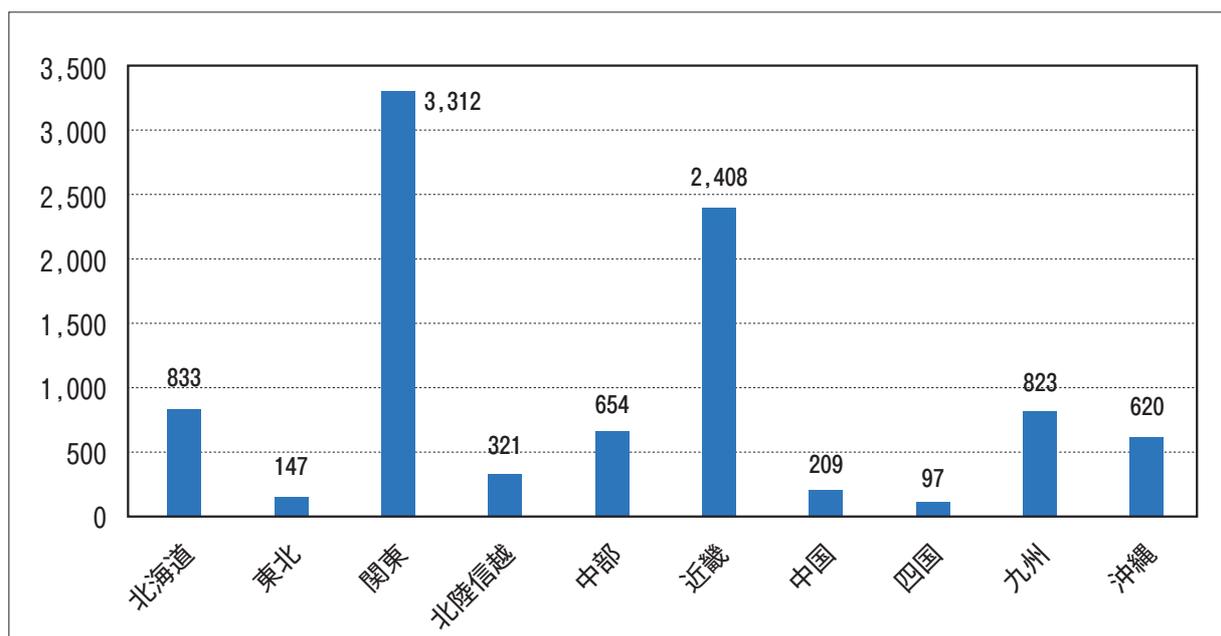
インバウンドに関しては、訪日客数が2013年に1,000万人を超え、2018年には3,000万人を突破し、引き続き増加が予想される（図1）。それにもかかわらず、四国に宿泊する外国人延べ宿泊者数は2018年度において97万人であり、全国に占める割合はわずか1%程度にとどまっている。つまり、地方ブロック別でも圧倒的に少ない現状が読み取れる（図2）。また、都道府県別訪日外国人訪問率におい

<sup>1</sup> 資料：観光庁「共通基準による観光入込客統計」における2019年6月28日更新時点の数値をもとにランキングを作成。未導入の大阪府を除く46都道府県のうち、石川県、長野県、静岡県、愛知県、京都府、兵庫県、高知県、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の11府県は集計中であり、ここでは35都道府県でのランキングとなっている。

でも、香川県が0.9%、愛媛県が0.4%、徳島県が0.3%、高知県が0.2%と四国4県とも1%に届いていないのが現状である<sup>2</sup>。



【図1 訪日客数の推移（万人）<sup>3</sup>】



【図2 地方ブロック別 2018年外国人延べ宿泊数（万人泊）<sup>4</sup>】

<sup>2</sup> 出典：日本政府観光局「2017年都道府県別訪日外国人訪問率」

<sup>3</sup> 資料：日本政府観光局「訪日客数の推移」をもとに作成

<sup>4</sup> 資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」（2018年確定値）をもとに作成

## ■ 海外の四国に対する認知度

海外から見ると、四国はひとつの観光地としての認識が強く、四国各県の知名度よりも「四国」としての認知度が高いことがわかる（表2）。また、日本への訪日経験者は四国への訪問意欲が高いことも示される（表3）。

【表2 四国の認知度<sup>5</sup>】

単位：人（%）

	12ヶ国・地域 N=6,283	アジア全体 n=4,134	欧米豪全体 n=2,149
四国	835(13.3)	697(16.9)	138(6.4)
香川/高松	372(5.9)	303(7.3)	69(3.2)
松山/道後	315(5)	255(6.2)	60(2.8)
徳島	446(7.1)	339(8.2)	107(5)
高知	435(6.9)	328(7.9)	107(5)

海外旅行経験者に「以下の観光地をご存じですか」と質問したところ、四国各県の知名度よりも、エリア名の「四国」の認知度が高い。

【表3 四国への訪問意欲<sup>6</sup>】

単位：%

	12ヶ国・地域			アジア全体			欧米豪全体		
	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上
訪日経験	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上
サンプル数	2,928	1,176	1,638	1,558	954	1,457	1,370	222	181
四国	1.9	3.3	9.6	1.9	3.8	10.1	1.9	1.4	6.1
香川/高松	0.9	1.4	3.5	1	1.4	3.4	0.8	1.8	5
松山/道後	1.1	1.4	2.5	1.1	1.4	2.3	1	1.4	3.9
徳島	1.4	1.7	3.3	1.1	1.5	3.3	1.8	2.7	3.3
高知	1.2	1.8	3.2	1	1.6	3	1.5	2.7	4.4

四国地区への訪問意欲は、アジアは一度でも訪日経験があれば上昇し、欧米豪は2回以上の訪日経験があれば上昇する。

<sup>5</sup> 株式会社日本政策投資銀行四国支店『訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査（2018年調査）～DBJ・JTBFアジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査より～（2019年2月）』P25の資料を一部加工。アジアは韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアの8ヶ国・地域を指し、欧米豪は英国、米国、フランス、オーストラリア4か国を指す。

<sup>6</sup> 上記調査報告書P28の資料を一部加工。

また、世界で親しまれている海外の大手旅行ガイドブック『ロンリープラネット』が選出した、2019年に訪れるべきアジア太平洋地域の目的地では、日本で唯一「Shikoku（四国）」が2位にランクインした。直島などの島々をめぐる瀬戸内国際芸術祭や秘境と呼ばれる祖谷エリア、鳴門の渦潮、高知城、ひろめ市場、道後温泉などの観光名所のほか、1,400キロメートルの道のりを巡礼する四国遍路（四国八十八カ所）についても紹介されており、四国は訪日旅行の旬の目的地として注目されている。

以上のように、インバウンド誘客について、四国は素晴らしい観光資源があり、潜在的な需要は大きいものの、効果的な対策が打てていないのが現状といえそうである。

## 2. 活動内容

### ■ 活動 1：観光アイデアコンテスト（2018年11月～2019年3月）

ターゲットをインバウンドに絞り、四国を一体として捉え、四国内の観光資源の組み合わせや情報発信方法、誘客の導線など、効果的な誘致促進につなげていくアイデアについて、若者目線の斬新な発想を期待した「観光アイデアコンテスト」を実施した。

なお、今回のコンテストは観光プランを検討するものではなく、四国を一体化したインバウンド誘客のためのアイデアを期待したものである。

#### 【アイデアコンテストの結果：各チームのアイデアのポイント】

##### ■ A チーム（優秀賞）

- ・瀬戸内海に着目し、美しい島々をクルーズにて観光
- ・徳島（阿波踊り）×高知（よさこい踊り）、徳島（大谷焼）×愛媛（梅綿）等、「四国のかけ算」と称し、クルーズ船上限定の商品や体験など付加価値の提供
- ・船上からの SNS 等による情報の拡散
- ・企業の福利厚生施設として活用

##### ■ B チーム

- ・米津玄師とコラボさせることで四国の知名度向上（コラボグッズの発売や MV ロケ地に選んでもらう）

##### ■ C チーム

- ・日本の文化体験にスポットをあて、一回の旅行で複数の体験ができる（民泊、お弁当作り体験、お花見、素麺箸分け、遊山箱づくり）

### ■ 活動 2：四国 4 県経済同友会による意見交換会（2019年6月3日）

香川、土佐、愛媛の各経済同友会に対してコンテストの結果を情報提供し、コンテストの内容に加え、四国が一体で観光振興するための方策について、意見交換会を実施した。

#### 【意見交換会の結果：各同友会の主な意見】

- 四国全体で取り組む方が効果的な施策や県単独では実現困難な施策を中心に活動を展開している組織も見受けられる<sup>7</sup>が、現状は各県単独で観光施策を打ち出している側面が強く、四国の観光コンテツをまとめて発信する体制や、四国を回遊させる企画・仕掛けが十分でない。

<sup>7</sup> 一般社団法人四国ツーリズム創造機構『第四次四国観光交流戦略 [2019～2021]』P1 参照。

- インバウンド客の受入れ態勢については、四国に来てもらうために、ハード面とソフト面において四国4県が連携して取り組みやすい仕組みを構築する必要がある。ハード面においては、インバウンド客が地域を訪れた際、観光資源の解説文が乱立していたり、表記が不十分なため、観光地としての魅力が伝わらない等の課題が見受けられる。また、言葉の壁の問題がおもてなし対応（ソフト面）の障害の一つにもなっている。さらに、空港などのインフラ面においても連携して誘客を考えるべきである。
- 四国各県の自治体については、予算の関係で各自治体に関する施策を中心としたものでなければ連携は難しく、各県単独でのPRにとどまり、他県の良い所がセールスできていない。また、そのような土壌もない。
- 観光人材（プロガイド、観光コーディネーターなど）を育成する専門機関がないため、ボランティアガイドに依存している現状がある。

行政や観光協会、DMOに加え、観光客を受け入れる側（地域）の連携、そして人材育成面における連携が必要である。

### ■ 活動3：公開シンポジウムへの参加（2019年2月5日）

観光振興については、様々な組織や団体がモニターツアーを通じたプラン発掘など、活性化に向けた取り組みを展開している。

また、これらの活動の情報共有や地域振興を担う人材の育成が必要であることは共通の課題として認識されており、本委員会も当該シンポジウムに参加し、アイデアコンテストの活動内容を紹介するとともに、観光人材育成について議論した。

#### 【公開シンポジウム】

- 徳島大学創立70周年記念事業として公開シンポジウム「観光まちづくりのための地域人材育成」を開催。
- 開催趣旨は、観光まちづくりを担う人材育成について民間・大学・経済界が連携して考え、また人材育成に関わる各々の取組みを共有することにより、将来の連携の可能性を探る。
- プログラムは、四国4国立大学（徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）とJR四国の連携事業発表、和歌山大学教授による講演会、JR四国・（一社）イーストとくしま観光推進機構・（一社）徳島経済同友会・徳島大学による人材育成に関わる活動紹介など。

#### 【課題】

- 全国各地で無料もしくは低廉な料金で、観光客に対して地域の魅力を紹介する観光ボランティアガイド<sup>8</sup>の活動は活発になっているが、あくまでボランティア組織であり、システムチックに継続して行えているかどうか疑問である。

<sup>8</sup> 公益社団法人日本観光振興協会「全国観るなび」によると、当協会が把握しているだけでも全国には1,688のボランティアガイド組織が存在し、徳島県には16組織存在する。  
(アクセス日：2019.6.18) <http://www.nihon-kankou.or.jp/volunteer/>

- 限られた地域だけではなく、四国全体をガイド又はコーディネートできる人材が必要になってくる。
- 近年、観光コーディネーター養成講座や観光ガイド養成講座を開催<sup>9</sup>したり、大学や経済界と連携して人材育成講座を開催するといった動き<sup>10</sup>が見られたり、さらに、観光を学べる大学も増加している<sup>11</sup>が、地域活性化の仕組みを構築する人材の育成を目的としたカリキュラムは少ない。観光を一つの学問として捉えて体系立ててカリキュラムを組み人材育成することが重要である。

人材育成については、地域で独自の取組みがなされているが、まだまだ不十分であり、専門・プロ（報酬がもらえる）人材を育成するといった視点が重要である。

<sup>9</sup> 上記公開シンポジウム、一般社団法人イーストとくしま観光推進機構による資料より。

<sup>10</sup> 一般社団法人四国ツーリズム創造機構『第四次四国観光交流戦略 [2019～2021]』P7 参照、四国経済連合会『2019年事業計画』P5 参照。

<sup>11</sup> 読売新聞朝刊（2018年9月20日（木））「稼ぐ観光大学が人材育成」によると、観光やホスピタリティーの名前がつく学部・学科が増え、全国で40余りある。

## 3. 提 言

---

今回の委員会活動を通じて明確となった、四国を一体とした観光振興を進めるために重要と考えられる施策について、徳島県観光協会、イーストとくしま観光推進機構、徳島大学他県内高等教育機関などに対して、以下の提言を行う。

また、四国の他の経済同友会に対しては、本提言書を観光振興に関する提言の一助として活用して頂きたい。

### ■ 提言 1：観光アイデアの活用

観光アイデアコンテストで出された以下のアイデアについて、具体的な商品化の観点からモニターツアーを実施し商品化を検討するなど、観光プランに以下のアイデアを取り入れる。

#### 【四国の掛け算】

- 「四国の掛け算」と称して、四国 4 県それぞれの観光資源を組み合わせることにより、今までに無かった新たな付加価値の提供が可能となる。

<例えば>

- ・阿波踊り（徳島）×よさこい祭り（高知）……………文化
- ・讃岐うどん（香川）×徳島ラーメン（徳島）……………食
- ・梅錦（愛媛）×大谷焼（徳島）……………酒、文化
- ・松山城（愛媛）×高知城（高知）×丸亀城（香川）……………城
- ・大塚国際美術館（徳島）×地中美術館（香川）×坂の上の雲ミュージアム（愛媛）……………美術館
- ・内子座（愛媛）×オデオン座（徳島）……………舞台

#### 【有名人の活用】

- 有名人とのコラボレーションを図ることにより、四国の知名度を向上させる。コラボグッズの発売や MV のロケ地として選んでもらう。

<例えば>

- ・米津玄師、広末涼子、友近

#### 【日本の文化体験】

- 日本の文化体験にスポットをあてた旅行をプランニングする。

<例えば>

- ・遊山箱づくり、讃岐漆器、砥部焼き

## ■ 提言 2：四国 4 県の連携

四国 4 県の経済同友会による意見交換会などを通じて、四国が一体となって、観光を推進するために、以下について取り組む。

### 【観光協会・DMO・行政等の連携】

- 各エリアの魅力的な観光コンテンツを DMO が取りまとめて関係者ととも磨き上げを行い、他エリアと連携することにより、四国 4 県での推進や平準化を図る。また、四国ツーリズム創造機構を中心とした既存組織の拡充・強化など、四国全体として推進が可能となるような体制整備も必要である。さらに、四国の観光情報をとりまとめたポータルサイトの創設や、四国 4 県をコーディネートできる人材の育成へと繋げていく。
- 「四国の掛け算」と称する、四国 4 県の観光資源を組み合わせる「テーマ別観光」は、旅行者へ新たに四国の複数地域への来訪・滞在を促すものであり、特定のテーマごとの旅行需要を創出していく必要がある。各テーマの観光資源のネットワーク化を図り、地域間で課題や成功事例を共有しながら、魅力的な広域周遊観光ルートの造成、プロモーション、環境整備に取り組む地域連携協議会（連絡調整会議など）を設置する。
- DMO に関しては、現在は自治体や企業からの出向者が中心となっている職員構成を、プロパー職員中心へとシフトしていく。誘客の手法や人脈・ネットワークを行政・民間それぞれの立場から継承することにより、将来的には観光のプロフェッショナル集団となるよう育成する。

### 【その他の連携】

- インバウンド目線で四国 4 県が連携して統一感のある多言語対応を行い<sup>12</sup>、またホテル・旅館へは POCKETALK（ポケットーク）<sup>13</sup> の設置を行うことにより、言語面での接客、おもてなしの質の向上に努めていく。
- 四国遍路由来のおもてなしの原点ともいえる、お接待文化が根付く四国において、四国 4 県全体で観光客におもてなしを行うという一種の宣言みたいなものを形として表現するために「おもてなしバッジ<sup>14</sup>」をつける。

<sup>12</sup> 国土交通省・観光庁『観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン』（平成 26 年 3 月）P2 によると、「各地域等による多言語対応の取組みがバラバラに行われるのではなく、共通の基本指針の下に、全体的な統一感を持って進められるよう、本ガイドラインにおいては、特に多言語対応に焦点を当てて、既存のガイドラインの内容を踏まえて深堀し、美術館・博物館、自然公園、観光地、道路、公共交通機関など各分野には共通する指針を盛り込むこととした」とある。

<sup>13</sup> 互いに自国語のまま対話できる双方向の音声翻訳機。

<sup>14</sup> 「高知家」のピンバッジをイメージしている。「高知家」は 2013 年に「高知県は、ひとつの大家族やき。」を宣言してスタートした高知県のプロモーション活動の一つである。

### ■ 提言 3：観光人材の育成

アイデアコンテスト、経済同友会による意見交換会、公開シンポジウムを通じて明らかになった課題として、観光振興のためには、観光を下支えする人材や、新たな「発展」「イノベーション」の道筋を見出す人材の育成が重要であり、以下の施策を行う。

#### 【プロガイドの養成機関・認定機関の創設】

- 絶えず学習を続けられるような体系的なカリキュラムを組み、四国全体の観光資源について紹介できる有償のプロガイド養成機関の創設と一定程度の能力を備えたプロガイドを認定する機関を創設すべきである。

#### 【観光コーディネーターの育成と養成機関の創設】

- 着地型旅行ツアー商品、地域特産ブランドや観光特産品などの商品を開発し、販売することで、地域活性化のための仕組みを構築することができる人材の育成とそのような人材を育成できる機関の創設が求められる。

#### 【地元の高等教育機関に観光に関する学部・学科の創設】

- 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」プログラムの中核的科目として「地域政策論」を開講するといった動きも見られる<sup>15</sup>が、課題も見受けられるため、観光産業を日本の基幹産業として認識し、観光に関する地域密着プロフェッショナル人材を養成する高等教育機関の創設を検討すべきである<sup>16</sup>。そこでは観光を理論的に研究した学者による体系的な授業や地域の課題を踏まえてマネジメントできる人材の育成が必要である。

---

<sup>15</sup> 徳島大学創立70周年記念事業（2019年2月15日）公開シンポジウム「観光まちづくりのための地域人材育成」にて徳島大学総合科学部豊田哲也教授の発表より抜粋。

<sup>16</sup> 和歌山大学では国立大学唯一の観光学部を2008年に開設。ハイレベルな国際的・学術的視点を有する観光人材の育成を目指して、観光経営、地域再生、観光文化の3コースを設置している。また近年では京都大学や関西学院大学、一橋大学の各大学院に観光人材育成コースが設置され、全国的にも人材育成が始まっている。

## おわりに

---

当委員会では、観光振興については、四国が連携して取り組むべき課題の一つであるとの認識のもと、今回の活動を展開しました。

少子高齢化、人口減少、地方創生が大きな問題と言われて久しく、この課題に本気で取り組むためには地方の観光振興がまさに重要な施策であると考えます。

そうした中で、本書でも一部紹介したように様々な組織や機関において多岐にわたる取り組みが行われていますが、「四国一体」との視点では十分ではないと思われま

す。今回の提言の具体化について、それぞれ高いハードルがあるとは思いますが、是非、各組織・機関で取り組んでいただき、「四国一体」を一步でも前に進めるための一助になればと期待しています。

最後になりますが、観光アイデアコンテストにご協力いただいた阿南工業高等専門学校、四国大学、徳島大学、徳島文理大学、眉山大学など関係者の皆様、参加していただいた学生の皆様、徳島大学公開シンポジウムの関係者の皆様、また、四国の課題について貴重なご意見を頂いた香川、土佐、愛媛の各経済同友会の皆様に深く感謝申し上げます。

## <活動にご協力いただいた皆様>

### 【観光アイデアコンテスト】

- 阿南工業高等専門学校、四国大学、徳島大学、徳島文理大学、眉山大学から 30 名の学生の皆様
- 川畑 成之 阿南工業高等専門学校准教授
- 吉田 寛夫 四国大学創業支援クリエーター
- 峪口有香子 四国大学地域連携コアコーディネーター
- 長谷川晋理 眉山大学理事長
- 荒木光二郎 徳島経済研究所専務理事
- 勇 寿憲 イーストとくしま観光推進機構専務理事
- 矢田 博嗣 徳島県観光協会理事長
- 坂田千代子 徳島経済同友会代表幹事

### 【公開シンポジウム】

- 豊田 哲也 徳島大学教授

### 【四国 4 県経済同友会意見交換会】

- 香川経済同友会 5 名の委員の皆様
- 愛媛経済同友会 8 名の委員の皆様
- 土佐経済同友会 4 名の委員の皆様

[役職は当時 重複参加は除く]

## <参考資料一覧>

- 観光庁「共通基準による観光入込客統計」
- 日本政府観光局「都道府県別訪日外国人訪問率」
- 日本政府観光局「訪日客数の推移」
- 観光庁「宿泊旅行統計調査」
- 株式会社日本政策投資銀行四国支店『訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査（2018年調査）～ DBJ・JTBF アジア・欧米豪・訪日外国人旅行者の意向調査より～（2019年2月）』
- 一般社団法人四国ツーリズム創造機構『第四次四国観光交流戦略 [2019～2021]』
- 公益社団法人日本観光振興協会「全国観るなび」 <http://www.nihon-kankou.or.jp/volunteer/>
- 徳島大学創立70周年記念事業 公開シンポジウム「観光まちづくりのための地域人材育成」資料（2019年2月5日）
- 四国経済連合会『2019年度事業計画』
- 読売新聞朝刊（2018年9月20日（木））「稼ぐ観光大学が人材育成」
- 国土交通省・観光庁『観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン』（平成26年3月）

<委員会活動実績>

日程・場所	事業名・事業内容
2018.4.18 本会事務局	正副委員長会 「今後のスケジュール」
2018.6.21 池田電気ビル	四国4県経済同友会による意見交換会 「意見交換会」 「三好市の地域交流拠点等視察」
2018.7.4 四国大学	正副委員長会 「四国新幹線講演会」
2018.8.3 関西経済同友会会議室	第2回四国・関西経済同友会合同懇談会 「四国新幹線」 「クルーズ船誘致の現状と課題」
2018.10.10 本会事務局	正副委員長会 「観光アイデアコンテスト」
2018.10.31 四国電力	観光アイデアコンテスト概要説明会 「概要説明とキックオフミーティング」
2018.11.7 阿南工業高等専門学校	アイデアワークショップ 「学生で編成されたチームでの意見交換」
2018.11.16 四国大学	四国新幹線実現に向けての講演会 テーマ：「新幹線で四国を変えよう！ ～新幹線を活かした四国の地域づくりビジョン調査～」 講師：石原 俊輔氏（四国経済連合会専務理事）
2019.1.16 本会事務局	正副委員長会 「観光アイデアコンテスト」
2019.1.16 阿南工業高等専門学校	第1回観光アイデアコンテスト中間発表 「チーム発表と講評」
2019.2.15 徳島大学	公開シンポジウム「観光まちづくりのための地域人材育成」 (1) 基調講演 演題：「和歌山大学観光学部が取り組む地域連携と人材育成活動」 講師：出口 竜也氏（和歌山大学観光学部教授） (2) 活動紹介（4つの活動） 「観光アイデアコンテストを紹介」
2019.3.19 よんでんプラザ	観光アイデアコンテスト 「最終審査会」 「意見交換会」
2019.3.29 本会事務局	正副委員長会 「今年度の活動のまとめ」 「来年度の活動」

日程・場所	事業名・事業内容
2019.5.9 本会事務局	正副委員長会 「四国4県経済同友会意見交換会」 「観光分野の提言」 「防災協定」 「四国新幹線」
2019.6.3 本会事務局	四国4県経済同友会による意見交換会 「観光アイデアコンテストの発表と活用」 「災害時の防災協定」 「四国・関西経済同友会合同懇談会テーマ」
2019.6.20 本会事務局	正副委員長会 「観光に関する提言書」
2019.7.4 本会事務局	正副委員長会 「観光に関する提言書」
2019.7.29 本会事務局	正副委員長会 「観光に関する提言書」